

わいまた NEWS

ロイマタとはニュージーランド先住民のマオリ族の間で愛と友情の絆を表すお守りの名前です。

第6号

2007年6月20日

【発行】

特定非営利活動法人あい・ぽーとステーション

〒106-0031 東京都港区西麻布 2-24-25-509

TEL 03-6657-8539 FAX 03-3499-8539

E-mail: station@ai-port.jp

URL: <http://www.ai-port.jp>

子育て・家族支援者養成講座事務局

千代田区三級第二期

講座が開講

六月十一日(月)、千代田区子育て・家族支援者養成講座三級第二期が受講生十七名を迎え開講。開講式には石川雅己千代田区長も出席下さり、ご挨拶をいただきました。

石川区長「挨拶」

「人類の歴史が始まって二千年余、常に我々は豊かな社会のためのバトンをずっと渡し続けてきた。そのキーワードは、子育てが楽しく、夢がある社会であり続けることであつた。昨今の子育てを取り巻く状況は、少子化に示されているように、大変に厳しい。バトンを受け継ぐためにも、子育てに夢や希望、喜びを持てる地域社会づくりをしていくことが私達の責務であると思う。子育てに喜びと夢を持てる千代田区にしたい。この講習会が多くの皆さんのお力添えで、子育てナンバーワンを目指す千代田区へとつながることを

きました。(矢野)



△千代田区開講式の風景

あい・ぽーとステーション二〇〇七年度総会 フォーラム「子育て支援の街づくり」

同時開催

六月二日(土)、子育てひろば「あい・ぽーと」にて二〇〇七年度総会に続いて、子育て支援フォーラム「子育て支援の街づくり」が開催されました。新澤誠治代表理事を司会進行役として、榊原洋一理事・汐見稔幸理事・小西行郎理事、そして大妻女子大学准教授で千代田区子育て・家族支援者養成講座で講師を務めてくださっている岡健先生をシンポジストに迎えて活発な意見が交わされました。

新澤代表理事がまず、昨今の教育再生会議の動向(母乳をあげながら目を見るなど)から見る子育て支援のあり方について疑問を投げかけたのを受けて、各シンポジストから次のような意見が出されました。榊原理事:「教育再生会議の内容も社会の子育てに対する不安の現われである。お上に頼らず、子育ての実績を積み上げていくことが必要。日本の子育ては江戸時代から地域の中に積み重なったものであり、文化的な態度はそんなに簡単に変わらない。子どもがおかしくなっていると云われるが、本当にそうか、もつとよく見てほしい」。汐見理事:「子どもは大人の社会とコミュニケーションをとっている。大人の社会の問題が子どもに現れてくる、つまり子どもは社会のカナリヤと言ってもいい。子どもをどうするのかを議論するのは間違っているのではない。自分と違う考え方をする人を認めることが重要であり、決まりを作つて守るだけでは、考えない人間になる。市民が議論する場が必要であり、それが街づくりであろう」。岡先生:「子育て支援の街づくりは託する信頼感である、と言えるのではない。雑多なものがあるのが街であり、違っているから面白い。法教育もルールづくりだが、皆で決めたことは守りましょうというだけの社会では違いを認める社会にはならない」。小西理事:「最近子どもたちの気持ちが分かるようになってきたと実感している。子どもたちの本音とは何か、子どもをもつと見てほしい。子どもが何を望んでいるかに戻つて考えたい等々。

次に新澤代表理事は、「最近では公園デビューならぬサロンドデビューという言葉もあるようだ。本音で語り合える場になればいいと思うが」と述べた上で、沖繩のたんぽぽ保育園がゆいまー(共同体)を意図的に作り出した事例を挙げ、行政と一緒に考えていく必要性に触れると、榊原理事は「今の教育再生会議の内容を見ても、親を、子どもを信頼していないのではない。支援というが、何かをしてあげなければいけないという姿勢になりがち。地域のよさは、そういうところではない。子どもに勝手にさせて見ているというふうな、おせっかいは焼くけど指図しない関わりが大切ではないか。」とコメントしました。汐見理事は、「大人の仕事は、子どもが持っている潜在的なギリギリの力をためせる環境を用意してやること」と述べると、岡氏は、「環境と言っても、子どもにとっては感覚の部分が大事。人と人との関わりにおいて適度な距離感を身につける時、感覚の多様性を育てることが必要ではないか。」とコメントしました。そして小西理事は、「支援を一番必要としている人は支援の場に来ない人ではないか。その人たちをどう巻き込んでいくかを考えていくべき。」と述べました。

最後に大日向代表理事が「子育て支援は固定したシナリオにとらわれてはいけない。各地域の独自性や特性を活かしつつ、子どもや親や皆がのびやかに生きる街を創造していくことが大切」と締めくくりました。

(小貫)



美浜南小学校地区児童育成クラブ訪問記

今回は、浦安市養成講座でご講義下さった宮野憲一先生が、施設長を務めていらっしゃる美浜南小学校地区児童育成クラブを見学させていただきました。おじやましたのはちようどおやつの時間、中に入ると明るいスペースが広がり、一年生から三年生の四十一名が五班に分かれて、おにぎり、ゼリーなどをお行儀よく、おいしそうに食べていました。壁には、子どもたちが色づけた傘やあじさいの花など、折々の季節感を感じさせる絵が飾られ、琉球たたみを使ったスペースには図書も揃えられ、とてもくつろぎのある温かい雰囲気でした。子どもたちはおやつや宿題の時間以外は基本的に自分の好きなことをして過ごすそうです。今日は施設長の他、四人の指導員さんが(一人は障害児担当)子どもたちに細かく目を配っていました。その中に、浦安市子育て・家族支援者養成講座修了生の方もいらつしやつて、とても嬉しく思いました。

子どもたちはそれぞれ塾に行く子、習い事に行く子など、スケジュールが様々で、そのスケジュール表によって子どもたちを送り出すのだそうです。それも当日の変更も多く、いかに、スケジュールどおりに間違ひなく子どもたちを帰らせるか、神経を使うところのお話でした。いまだきの子は忙しいのだと改めて感じさせられました。

さて、おやつのは四年生も加わつてみんなの大好きな外遊びの時間となりました。広い校庭で、男の子はキャッチボールやサッカー、女の子は一輪車や鉄棒などと思ひ思ひの遊びに熱中します。中にはちようどハラハラするような遊び方をしている子どももいましたが、昔は多少の危険も含んだこんな遊び方をしていたと、懐かしく思ひ出しました。でも、外で伸び伸び遊ばせたい反面、事故や怪我が起きないように見守ることは、指導員の方たちにとってはとても苦勞なことだと実感しました。宮野先生も、今日も皆怪我もなく無事に終わつてよかつた、という思ひで一日一日を過ごされていると話して下さいました。

学童期の子どもたちも高学年になるにつれて、動きが激しくなり、けんかをしたり、子ども自身も色々なストレスを抱えていたり、扱いが難しくなると思ひますが、指導員さんの中にはもっとと学童期の子どもたちの心理、精神的な面についての対処の仕方を学びたいという意欲を持った方もいらつしやいました。宮野先生は、叱るときはしつかり叱る、普段は先生(指導員)という上につつた立場ではなく、子どもと同じ目線にたつて接することを心がけているとお話下さいました。また、問題のある子に対しては、手加減しないぶつかり合ひで接した体験を語つて下さり、宮野先生の熱い思ひが子どもたちに伝わつていくのだと思ひました。児童育成クラブは宮野先生をはじめ、指導員の方たちの「子どもが大好き」という思ひに見守られて、子どもたちにはとても家庭的な居心地のよい場所になっていると感じました。

短時間でしたが、お忙しい中、見学を受け入れて下さつた、宮野先生、指導員の皆様、「また来てね」と言つてくれた子どもたち、本当にどうもありがとうございます。(取材 畑村)

千代田区バックアップ

六月十一日(月)、第四回千代田区バックアップ研修が行われました。参加者は四名で、今回も二部構成で行われました。

前半は、大日向代表から少子化対策の最新レポートがありました。六月に「子どもと家族を応援する日本」重点戦略検討会議の中間報告が出されたこと、一方、合計特殊出生率が

一・三台を回復するなどの新しい流れについての解説とともに、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現と重要性について話し合ひました。このテーマについては、参加者自身にもいろいろと実感があるようで、ご家族の中での経験等、活発なお声がたくさん出されました。

後半は、子育てひろば「あい・ぽーと」の星養輝保育士より「手遊び・絵本・ペープサートなど」というテーマで、親子でのふれあひ遊び等の紹介や、参加者で考えてつくる二歳児の誕生会をしました。誕生会は、「大きな栗の木の下で」で手遊びをしたり、絵本「ちびゴリラのちびちび」と紙芝居「おおきくおおきくおおきなあれ」を読んだり、「アブラハムの子」でみんなで踊つたり、楽しい誕生会になりました。最後に、参加者の得意な事や活動についても話し合われ、今後の活動の参考になるアドバイスをたくさん得ることができたようです。

(取材 矢野)



★星保育士から一言★

バックアップ研修ということで、普段から実際に活動経験を積んでいる方々が対象です。講師などいなくとも皆さん各々素晴らしいアイデアや特技をお持ちですので、それらを互いに披露し合う形式となりました。

テーマは誕生会。スタッフの矢野が誕生児になり、2歳の誕生日を皆さんにお祝ひして頂きました。皆さん各々手遊びに体操やエプロンシアター・絵本・紙芝居など特技を披露して下さいました。皆さんお互いの催しものに感心したり、笑顔もみられ、とても楽しい誕生会になりました。

今回のように、遊び方を披露し合つたり、普段の活動について悩みを共有したり、時には励ましあつたりすることができる仲間がいて、その機会があるということは非常に素晴らしいことだと思います。これからもこのような場にたくさん参加して頂きたいと思ひます。

お忙しいなか参加して下さいました皆さん本当にありがとうございました。(星)

ワーク・ライフ・バランスについて意見を出し合う▽



△お誕生会の風景

札幌市バックアップ研修レポート

五月二十四日(木)、第三回札幌市バックアップ研修会が行われました。

今回のバックアップ研修は施設見学と研修の二部構成で行われました。見学先はつどいの広場「んぐまーま」と札幌市東区保育・子育て支援センター「ちあふる・ひがし」の二カ所でした。

谷川俊太郎さんの絵本の題名がつけられた「んぐまーま」は毎週木曜日、午前十時から午後三時まで開かれています。ここは札幌大谷短期大学が、開かれた大学として地域の声を教育と研究に生かしたいと願い、二〇〇五年九月にオープンした子育て支援センターです。つまり、保育士養成校が行っている子育て支援で、場所は大学構内にあります。スタッフとして活躍されているのは、NPO法人子育て応援「かざぐるま」の方々と札幌大谷短期大学の教員・保育科の学生です。

育児相談には専任スタッフはもちろん教員もお答えするとのこと、お母さん方にとっては心強いことと思いました。

学生たちは講義で理論を学び「んぐまーま」で実習・実践を重ねることになります。見学日は休講だったため、学生の姿はありませんでしたが、広場には学生が作った手作りおもちゃ・部屋飾りなどがありました。そして選び抜かれた家具(テーブルやイス)、たくさん絵本や木のおもちゃが多くの親子を温かく迎えていて、興味深く拝見しました。

次に、「ちあふる」の愛称で親しまれている札幌市の保育・子育て支援センターですが、ここは従来の保育所の働きに加えて、常設の子育てサロンをはじめとする様々な子育て支援に関するサービスを提供している施設です。

昨年、市内の三区にオープンしましたが、今春新たに東区にオープンした「ちあふる・ひがし」を見学させていただきました。

保育所が併設されていますので、園児とふれあったり、園の行事に参加したりすることが出来ます。サロンに来ているお母さん方は、園児の遊ぶ様子、生活する姿を見て「あんなふうに大きくなつていくんだ」と自分の子育てに励ましも見通しを与えられるということです。

また、保育士のほかに栄養士、看護師も常勤しているので心配や悩み事などいつでも相談できる体勢が整っています。ここでは支援者の方も活躍されていました。

参加者が三グループに分かれて施設見学をした後は合流をして、後半の研修会が始まりました。札幌市子ども未来局の吉田課長、札幌市子育て支援総合センターの高橋課長、榊係長が出席されました。



△施設見学後の研修会の様子。

小貫のマタニティー奮闘記(1)

ただ今7ヶ月。すっかり妊婦らしい体型になってきて、電車でも皆さん席を譲ってくださいます。でも案外しんどいのはつわりの時期だったような気がします。つわりの時期はお腹も目立たないから妊婦と気づいてもらえずつらいもの…。東京ではすっかりお馴染みになった「マタニティマーク」をご存知ですか？厚生労働省が、妊産婦にやさしい環境づくり推進を目指して公募したマークです。首都圏の鉄道事業者16社局では、妊産婦の方に無料でこのマタニティマークのキーホルダーを配布しています。このマークに気づいたら声をかけてもらえると嬉しいです。



(後藤・美馬)

研修会では支援者のみなさんへ活動の場を紹介がありました。七月から始まる「日曜ファミリ―子育て広場」(サンデーサロン)というもので、日曜日開催の子育てサロンです。父親講座などを行い、父親の育児参加を促すことを目的としたもので、「ちあふる・ひがし」と「ちあふる・とよひら」の二カ所で行われます。

支援者の皆さんが講座で身につけられた力と理論を思う存分発揮されることを祈ります。



星保育士☆オススメ本の☆

『歌って楽しい 手あそび 指あそび 120』

編・著/レッツ・キッズ・ソンググループ 出版社/ポプラ社

昔ながらのものや、誰もが知っているようなポピュラーな手あそびや指あそびがたくさん掲載されています。皆さん一度は聞いたことのあるものばかりで誰でも簡単にできるものばかり。一冊は持っていて損はしません。

『低年齢児から楽しめるあそび・ヒントつき わくわくペープサート』

著者/阿部 恵 出版社/ひかりのくに

簡単に作れて持ち運びにも便利なペープサート。低年齢児から楽しめる作品がたくさん載っています。

『保育園で人気の 0・1 歳児のあそび』

編/ちいさななかま編集部 出版社/草土文化

こんなちいさな赤ちゃんを何をして遊んだら良いかわからない…そんな時に役立つのがこの一冊。

『シリーズ・ゆとりと充実のある保育園づくり1 0歳児クラスの楽しい生活と遊び』

著者/米山 千恵・渡辺 幸子 出版社/明治図書出版

子どもの発達の段階がひと目で分かる発達段階表や、0歳児の一日の生活リズムのわかる表などが載っていて分かりやすい内容になっています。シリーズで1歳児クラス、2歳児クラスなどもあります。



今回は、浦安市・千代田区のバックアップ研修で星保育士が紹介した4冊の本をご紹介します。

その他、あい・ぼーとの保育士スタッフにこんなことについて聞きたい! など、ご要望をどしどしお寄せください。

「あい・ぽーと」と企業とのコラボレート企画進行中！

☆夏休み☆東京国際フォーラムに 「あい・ぽーと」が参加します！！

東京国際フォーラムの開館10周年記念事業として 8月 14・15・16 日の夏休み真っ最中に開かれる「丸の内キッズフェスタ」。住友生命保険相互株式会社(100周年記念事業「未来を築くプロジェクト」)の提供により、私たちNPO法人あい・ぽーとステーションが運営協力として参加し、イベントを開催することになりました。

題して

「汐見じい&大日向グランマと子育てを語ろう」

この「丸の内キッズフェスタ」は国際フォーラム全体をキッズイベント会場にして、さまざまな団体が各ブースで趣向を凝らした楽しい企画を行います。あい・ぽーともその1つとして今回お声がけをいただきました。あい・ぽーとが参加するのは8月15日の午後で、あい・ぽーとイベント企画の仕掛け人「アーティストチーム」が、大好評の“音楽絵本”(スクリーンに投影された絵本を音楽に合わせて読み聞かせる)を、そして、全国版養成講座世話人代表としてお馴染みの汐見稔幸と大日向雅美の2人と一緒に子育ての楽しさ・素晴らしさについて語らおうという、盛りだくさんの内容です。イベントの様子もレポートしたいと思います。楽しみにしててください！

住友生命創業100周年記念事業
『未来を築く子育てプロジェクト』助成事業
NPO法人あい・ぽーとステーション
子育て・家族支援者養成

＜全国自治体職員向けプロジェクト＞

主催：NPO法人あい・ぽーとステーション

後援：厚生労働省

住友生命100周年記念事業として助成をいただき、あい・ぽーとが培ってきた、地域の子育て・家族支援のノウハウを、各自治体の少子化対策・子育て支援の取り組みに活かしていただくことを願って、9・10・12月、全3回に亘って自治体職員向け研修を開催致します。この研修の目的は、「わが町・わが市にふさわしい少子化対策・子育て支援を行うための知識と技術を高める」ものです。対象は、全国市区町村の子育て支援行政担当者です。すでに全国から研修のお申込をたくさんいただいています。

＜第1回＞「子育て家庭・親のニーズを汲み取ろう」

＜第2回＞「市民・NPOとの協働を進めるために」

＜第3回＞「わが市・わが町にふさわしい子育て支援を」

今、子育て支援は市民や NPO、そして行政との協働の時代を迎えています。本事業は新たな時代の幕開けに向けた第一歩(歴史的な！？！)となることをスタッフ一同願っています。詳細は HP で。[\(http://www.ai-port.jp/\)](http://www.ai-port.jp/)

千代田区

第五回 バックアップ研修のお知らせ

第五回の千代田区 子育て・家族支援者養成講座受講修了生対象、バックアップ研修を左記の通り開催致します。

日時 平成十九年七月十一日(水)

午後一時から三時三十分

場所 西神田コスモス館二階 記念室

テーマ:「一時保育のリスクマネジメント」

講師 榎本三千雄

(株) イー・ケア・サポート 代表取締役

ご出席の方は七月三日(火)までにあい・ぽーとステーション事務局(TEL:03-6657-8539)までお申込みください。

浦安市

第五回 バックアップ研修のお知らせ

第五回の浦安市 子育て・家族支援者養成講座受講修了生対象、バックアップ研修を左記の通り開催致します。

日時 平成十九年七月十八日(水)

午後一時三十分から三時三十分

場所 浦安市文化会館 中会議室

(保育室文化会館 第一練習室)

内容 未定

講師 あい・ぽーとステーション代表理事

新澤 誠治 他

ご出席の方は七月十一日(水)までに浦安市こども家庭課子育て係(TEL:047-351-1111・FAX:047-304-1505)までお申込みください。

～事務局から～

☆この時期、あい・ぽーと事務局は養成講座、住友生命の助成事業等で大忙しです。強い連帯感をもったスタッフ一人一人が、何人分も動いています。「優しいあい・ぽーとに強さあり」ということでしょうか？ (榎本)

☆浦安・千代田の養成講座でてんこまいの毎日です。でも皆さんの活動の様子を耳にするたび私もへこたれていられない！と自分を奮い立たせています。会う支援者さん皆さんにお腹を触ってもらって、これで安産間違いなし！！ (小貫)

☆受講生の方たちが熱心に講座を受けていらっしゃる姿を見るたびにとても心強い気持ちになります。うっとおしい梅雨も暑い夏も乗り越えられそうです。(畑村)

☆美しい緑の中、「ひろば」の遠足に出かけました。お弁当が終わると、1歳のHくんは隣の老人クラブ(?)の輪の中へ入って、両手にいっぱいおやつを持って帰って来ました。ありがとうございます、おじいちゃん おばあちゃん。(後藤)

☆夏の日差しを感じる季節になりました。汗をかいて遊んでいる子どもたちの姿に思わずニンマリしています。(美馬)